

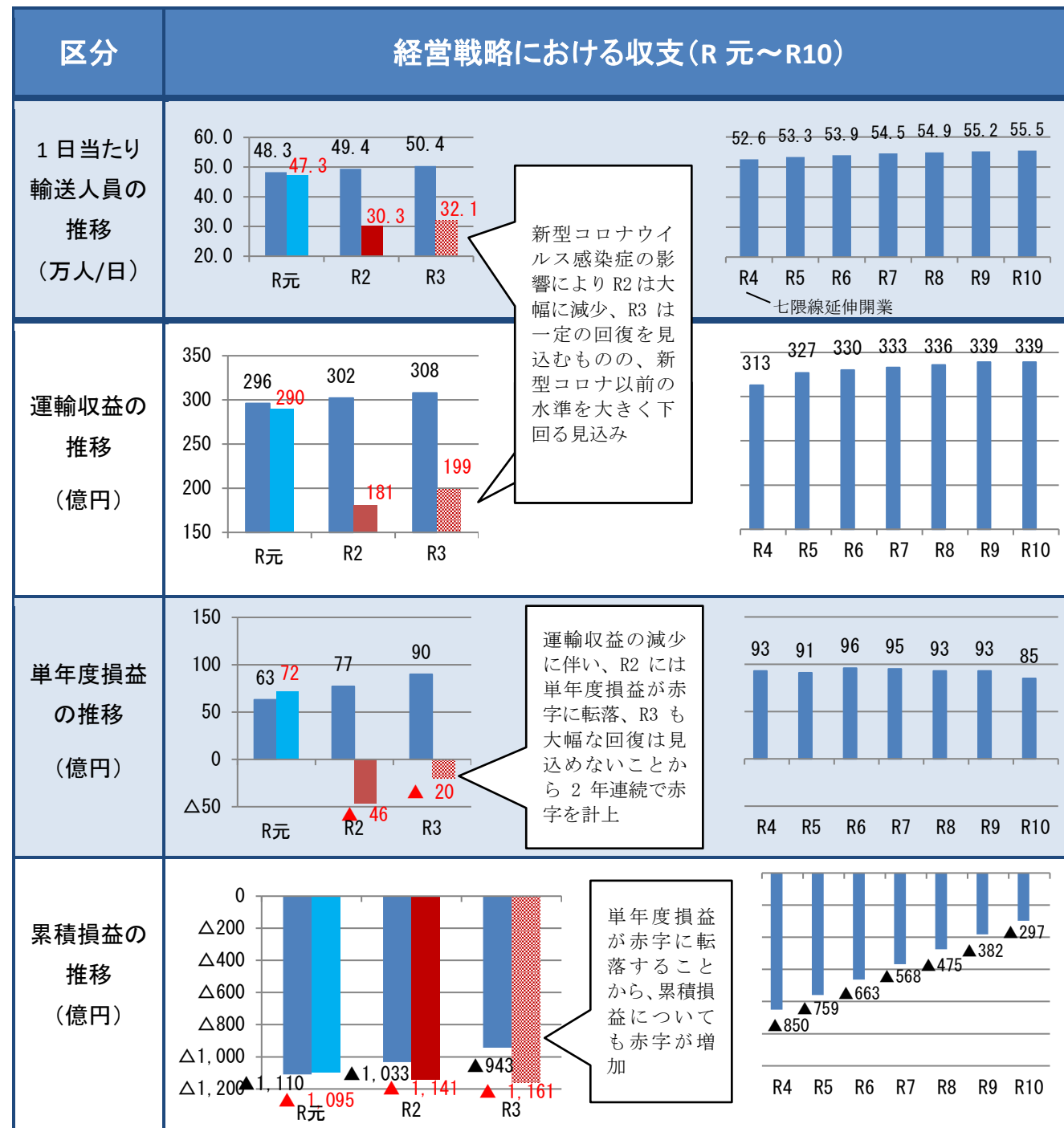
# 令和3年度 交通局運営方針

## 1. 経営理念

私たちは、日常を支える公共交通機関として、安全・安心を何よりも優先するとともに、質の高いサービスの提供にチャレンジし続けることで、お客様と福岡のまちの笑顔と元気を運びます。

## 2. 財政計画 (H31年2月公表の経営戦略における数値)

■計画額 ■決算額 ■補正後予算額 ■当初予算額



新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、今後見直しを検討予定。

## 3. 新型コロナウイルス感染症の影響と対応

- 地下鉄経営の基礎となる輸送人員については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は大きく落ち込み、令和3年度においては、一定の回復を見込んでいるものの、新型コロナ以前の水準までは至らず、依然として地下鉄の経営環境は厳しい状態が続くと考えられるため、不要不急事業の先送りや事務経費の削減などに努め、経営の健全化を図っていく。
- このような厳しい経営環境においても、最重要課題である七隈線延伸事業のほか、「安全・安心の確保」や「快適で質の高いサービスの提供」、「まちづくりへの貢献」、「経営基盤の強化」を柱として必要な取組みを進めていく。

## 4. 施策・事業の推進

### (1) 七隈線延伸事業の推進

- ・土木工事、軌道工事および車両製作を引き続き推進するとともに、駅建築・設備等に関する工事に本格的に着手し、安全対策に万全を期しながら、適正な工程管理を行い、令和4年度の開業を目指す。



#### 【主な事業内容 (R3)】

- 土木本体工事 (博多駅躯体工事等)
- 駅建築・設備工事等 (中間駅・博多駅建築、空調・信通・電力設備等)
- 軌道工事等 (軌道・リアクションプレート設置等)
- 3000系車両製作 (搬入・既設区間での試運転・営業運転)

## (2) 安全・安心の確保

- ・安全を最優先とする組織風土を確立するため、施設・車両などの確実な保守点検・維持管理と計画的な改修等による安全性の確保や、自然災害やテロ対策の強化に取り組むほか、運輸安全マネジメントのスパイラルアップを図るとともに、教育訓練の充実などによる安全スキルの向上に取り組む。

### 施設、車両などの安全性の確保

#### 【1000N系車両更新事業】

- 経年劣化が進んでいる1000N系車両について、新造車両への更新に向けた取り組みを実施

#### 【2000系車両大規模改修】

- 車体の補修、主要機器の更新等を実施。全6編成のうち令和3年度に2編成目の改修車両運行開始

#### 【七隈線運行管理システム更新】

- 七隈線延伸事業に伴う機器の新設・改良、主要機器の更新等を実施

#### 【3000系車両列車制御装置更新】

- 経年劣化に伴う自動列車制御装置、自動列車運転装置の更新等を実施

#### 【自動列車制御装置(ATC)更新】

- 貝塚駅の自動列車制御装置(ATC)の更新を実施

#### 【土木構造物の長期健全性の確保】

- トンネルなどの土木構造物について、長期的な補修計画に基づき改良工事を実施

#### 【姪浜駅リニューアル事業】

- 経年劣化が進んだ駅舎の外壁改修工事等を実施

#### 【姪浜車両基地大規模改修】

- 姪浜車両基地の安定的な機能維持のため、管理棟大規模改修工事等を実施

### 災害対策などの強化

#### 【集中豪雨などによる浸水対策事業】

- 局地的な集中豪雨などによる浸水に備え、重要施設の浸水対策や既設の駅止水板更新など施設の浸水対策改良工事を実施

#### 【新型コロナウイルス感染拡大防止】

- 駅の券売機や階段の手すり、車両の吊り手や手すりなどお客様が触れる箇所の消毒を継続実施
- お客様用消毒液を全駅に配置
- 「マスクアンドライド」の周知啓発を継続実施
- ラッシュ時車内混雑状況(前日分)の情報提供を継続実施
- 時差出勤(オフピーク利用)の周知啓発を継続実施

## (3) 快適で質の高いサービスの提供

- ・お客様により満足いただける高品質なサービスを提供するため、スムーズな輸送サービスや快適・便利な環境づくりに取り組むとともに、超高齢社会に対応したサービスの提供や来街者にも使いやすい環境の整備など「ユニバーサル都市・福岡」にふさわしい地下鉄に向けた取り組みを推進する。

### みんなが使いやすい環境づくり

#### 【ユニバーサルデザインの推進】

- 博多駅筑紫口エスカレーター設置工事を実施
- 博多駅筑紫口及び天神駅東口においてエレベーター設置工事を実施
- 2000系車両の大規模改修において優先スペース設備の更なる充実、ドア開閉予告灯・チャイムの新設を実施
- エスカレーター音声案内装置、光警報装置を設置

### 快適・便利な環境づくり

#### 【乗車マナーの向上】

- エスカレーター音声案内装置を設置(再掲)
- 乗車マナー向上に関する取り組みを継続実施

#### 【駅の空調設備の改良】

- 空港・箱崎線におけるクールルームを改良
- 七隈線における空調設備を改良(駅内の排熱機能の向上)

#### 【七隈線新駅ホームドア3Dセンサー導入】

- 列車とホームドアの間の残留物を立体的にきめ細かく検知する3Dセンサーを七隈線博多駅(仮称)及び中間駅(仮称)に導入

### 超高齢社会に対応したサービスの提供

- 駅トイレの洋式化(令和3年度に全トイレ洋式化完了)
- 天神西口の男子トイレ改良工事を実施

### 来街者にも使いやすい環境整備とサービスの提供

- 地下鉄車内や駅案内サインについて、外国語表記を含め、より分かりやすい案内表示に改修
- 博多駅に地下鉄駅コンシェルジュを引き続き配置

## (4) まちづくりへの貢献

- ・駅周辺のまちづくりに対応した駅施設の改良や、沿線の地域、イベント、施設などと連携した取組みを推進する。また、省エネの推進など環境対策に関する取組みを推進する。

### 沿線まちづくりに対応した駅施設の改良など

#### 【天神ビッグバンの推進（天神駅東口リニューアル事業）】

- 天神駅東口エレベーター設置工事を実施（再掲）
- 賑わいスペースの再公募を実施

#### 【博多駅筑紫口リニューアル事業】

- 博多駅筑紫口エレベーター設置工事を実施（再掲）
- 利便施設改良工事を実施

### 沿線の地域、イベント、施設などとの連携

- 近隣の街並みや地域の歴史、観光資源などの特性を踏まえた駅ごとの魅力づくりに取り組む
- 世界水泳選手権大会の気運醸成を図る

### 環境対策に関する取組み

- 駅照明等のLED化推進により環境負荷を低減

## 5. 経営健全化の推進

### 新型コロナウイルス感染症による経営への影響と取組み

#### 【令和3年度予算の状況】

	令和3年度 当初予算	令和2年度 最終予算	対前年伸び率
一日平均輸送人員	321,100人	302,800人	6.0%
運輸収益	21,853百万円	19,908百万円	9.8%
運輸雑収益 (広告料)	965百万円	958百万円	0.7%
単年度損益	△2,040百万円	△4,611百万円	(増減額) 2,571百万円

### 《資金繰り（累積資金）と企業債残高に与える影響》

- 損益の悪化に伴い、資金繰りも大幅に悪化するが、減収分を補てんする特別減収対策企業債8,052百万円を発行することにより、令和2年度末と同程度の累積資金不足額に留めるため、資金繰りに大きな影響は生じない見込み
- 企業債残高も、特別減収対策企業債の発行等に伴い計画より縮減額が大幅に減少するものの、縮減傾向はかろうじて維持できる見込み

### 《令和3年度の取組み方針》

- 令和3年度予算の状況からも、新型コロナウイルス感染症の影響により、乗客減少や広告掲出減少など地下鉄経営を取り巻く環境の厳しさが顕在化しており、感染の収束状況や集客イベントの開催状況等の社会情勢を考慮しながら、より効果的な増客・増収対策に取り組んでいく
- 国庫補助金や一般会計からの繰出金など、資金の確保を図るとともに、支出においては、費用対効果や必要性を再検証し、徹底した経費縮減を図る

### 戦略的な営業施策の推進

#### 【営業データの活用などによる営業企画の強化】

- 新型コロナウイルス感染症の影響による「新しい生活様式」の定着など、今後の地下鉄を取り巻く様々な環境の変化に対応するため、各種営業データの分析を通じた新たな施策を検討

### 運輸外の収入確保

- 広告料収入、駅ナカ事業収入の確保に取り組む
- 駅ナカ店舗の公募実施や新規店舗区画の創出に取り組む
- 遊休資産の有効活用に取り組む

### アセットマネジメントの推進

施設・車両などのライフサイクルコストの最小化と投資の平準化を図るため、予防保全型の維持管理の観点をより積極的に取り入れながら、安全性の確保を最優先として、施設・車両などの計画的かつ効率的な修繕・更新を推進する

## 6. 人材育成・活性化、コンプライアンスの推進等

### 人材確保と育成

平成 31 年 4 月に改訂した「交通局人材育成プラン」に基づき、地下鉄事業の安定的かつ円滑な継続と持続的な発展のため、人材育成に関する総合的な取組みを計画的に推進する

### コンプライアンスの推進

安全・安心な輸送サービスを提供し、お客様の信頼と期待に応え続けていくために、服務規律の確保及び公務員倫理の確立に向けて取り組むとともに、コンプライアンスの徹底を推進する

## 7. その他

### 地下鉄開業 40 周年に関する取組み

地下鉄開業 40 周年を記念した事業を企画し、お客様や関係者への感謝の気持ちを表すとともに、誰もが使いやすく環境にやさしい地下鉄の利用促進に取り組む

## 8. 中長期目標（成果指標）

指標項目		目標設定時 (H30 年度)	現状値 (R2 年度)	最終年次 (R10 年度)	
安全安心の確保	地下鉄が安全・安心と感じるお客様の割合(%)	89.9	94.8	現状以上	
	技術の継承がうまくいっていると思う職員の割合(%)	32.0	—	60	
	ヒューマンエラーの件数(件)	63	30	50	
	施設・車両に起因する運行への影響件数(件)	11	16	8	
	施工不良・作業不良に起因する障害の件数(件)	14	8	11	
快適で質の高いサービスの提供	「駅員の接客」に関する満足度(%)	94.8	96.0	現状以上	
	「乗車マナー」に関する満足度(%)	67.7	77.8	75	
	「案内サイン」に関する満足度(%)	85.0	87.3	90	
	朝ラッシュ時の定常的な遅延時分 (遅延率)(%) ※R2 3 月ダイヤ改正後	《空港・箱崎線》	50.0	0.0	30
		《七隈線》	14.0	0.0	5
	エレベーター、エスカレーターを増設した駅数(駅)	—	3	10	
65 歳以上の利用者数(人)	23,716	36,263	60,000		
まちづくりへの貢献	地下鉄駅に親しみや愛着などの魅力を感じる お客様の割合(%)	85.1	85.8	90	
	他の交通機関との乗継ぎがしやすいと思う お客様の割合(%)	75.3	74.0	80	
	お客様1人を1km運ぶために使用する電力量(Wh/人km)	102.0	142.0	91.3	
経営基盤の強化	現在の仕事にやりがいを感じている職員の割合(%)	58.0	—	70	
	累積欠損金(億円)	1,243	1,141 (最終予算)	297	
	企業債残高(億円)	2,530	2,314 (最終予算)	1,065	